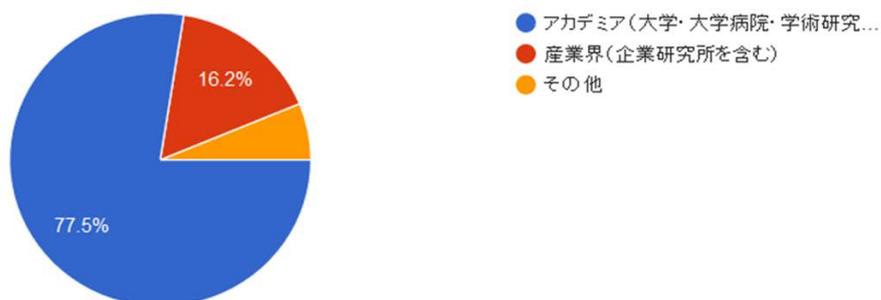


アンケート返答者の属性

100名の参加者のうち、80名からの返答がありました。昨年の返答率（約6割）より高くなりました。

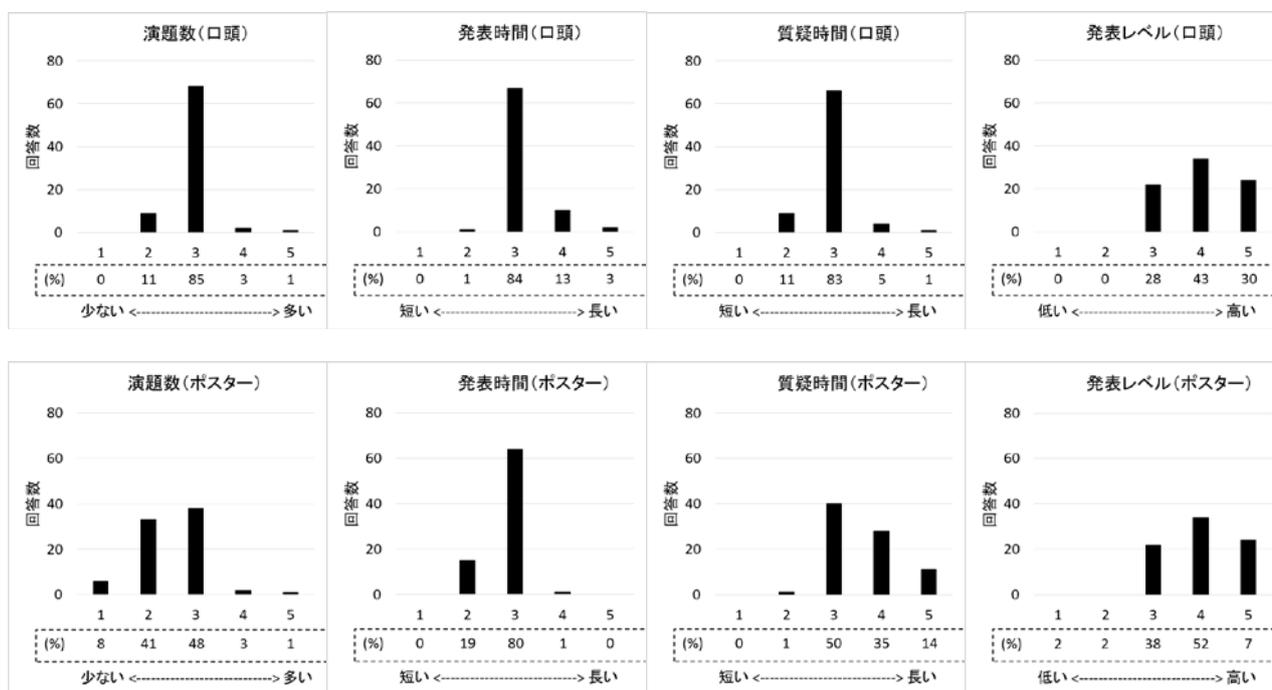
所属機関のタイプは？

80件の回答



発表形式や内容について

アンケート集計結果



口頭発表については、演題の量・質・時間配分は適度であったと判断できますが、ポスターの量がもう少し増え、ポスター発表の時間（今年はポスター懇親会として1時間）を少し短縮しても良いかもしれません。

発表内容に関するコメント（まとめ）

- 多分野からのテーマが集まり、偏り無くバラエティ豊かで良い
- モデル動物の基礎研究も面白いが、ヒトを対象とした研究ももう少し聞きたい
- 研究会の趣旨と異なるが、臨床研究（生活習慣病、神経性食欲不振症など）も聞いてみたい
- 産業界（企業）からの発表が少なく、アカデミアと産業界の双方の価値観を照らし合わせる機会が少なかった
- 発表内容が、「食欲・食嗜好」よりも「摂食行動および摂食量調節機構」に偏っており、嗜好性、おいしさ、食物選択（食物選好）の演題が少ない。肥満学会との差別化をどのように行い、目的の「食欲・食嗜好」の解明につなげるかが大きな課題だ
- シニア研究者から、特定分野に関する総説的な特別教育講演（招待講演・自己推薦）が欲しい

本研究会の発表演題は、全て「公募」によって集めたものです。招待講演枠はないですが、関係者が「オモシロイ」と思った仕事をされている方には、研究会について口コミすることで、演題を集めている状況です。

研究会でカバーし切れていないテーマがある原因は、主に以下の3つが考えられます。

- (1) 研究が国内で進んでいない
- (2) 国内で精力的に研究されている研究者が、研究会に参加されていない
- (3) unpublished data の発表が中心となるため、発表できない事情がある

(2) の場合は、研究会の広報活動（口コミ）を強化することで、改善可能ではないでしょうか。産業界の方に関しては、(3) の問題があるのではないかと推察します。

特別教育講演は、多分野の人間が集まる本研究会の特性上、基本的な理解を共有するよい機会になるというメリットがあります。また、産業界の方の場合は、未発表データでなければ、所属企業から発表の許可が下りる可能性があると思います。

他方、特別講演（シニアの先生の話の拝聴する）が、リラックスした雰囲気の中堅・若手が活発にディスカッションする研究会のスタイルと両立するか、今後の課題として考えたいと思います。

発表フォーマット・演者に関するコメント（まとめ）

- 学生・若手の発表がもう少し増えるとよい（例：学生のポスターセッション）
- 学生の発表に YIA のような賞をあげられるとよい
- 未発表のデータで 20 分の発表時間だとハードルが高い
- より多くの専門分野の視点からの発表を聞けるように、発表時間を少し短くして(15 分)、口頭発表の演題数を増やせないか？

今回の参加者の内訳でも、助教レベルが一番多く、大学院生・ポスドクの参加数が少なめでした。若手（学生・ポスドク）の演題が集まりにくい理由は、経費の問題と、口頭発表(30 分)のハードルの高さの両者が絡んでいると思います。

以下のような対策が考えられます

- (1) 旅費支援は、発表する学生とポスドクを優先する
(今年は、口頭発表演者とポスター発表の学生の旅費を支援)
- (2) short talk の枠も設ける

他方、レベルの低い演題がたくさん集まっても、研究会のサイエンスのレベルは上がらず、発表なしで情報収集を目的に参加する方々を満足させられないという問題もあります。

既存の学会・研究会で満たされていないニーズをとらえられるように、バランスをうまく取りたいと思います。

ポスター発表に関するコメント（まとめ）

発表枠を作ったことは、肯定的にとらえていただきました。

- Poster blitz はすごく良かった vs. あまり機能していない と意見が割れました
- 会場セッティングの問題：広さの確保とブレイク会場との一体化
- ポスター懇親会の終了時間の延長と明確化

今回は、終了予定時刻(19時)にまだ参加者が多くいたため、19時30分頃まで続けてしまいました。しかし、終了時刻を明確化しないと、その後の予定が立たないという問題が発生しました。この点は、改善したいと思います。

タイムスケジュールに関するコメント（まとめ）

肯定的にとらえていただきました。

- 議論の時間が十分に確保できていた。
- ブレークタイムにも、コミュニケーションを十分に取ることができた。
- その結果、比較的自由に討論できた。

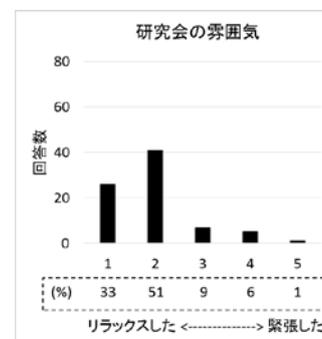
ディスカッションが白熱し予定時間を超過したため、途中で打ち切る演題もありました。しかし、ブレークタイムに追加でディスカッションするなど、おおむねワークしたという印象です。

研究会の雰囲気や、独自の取り組みについて

研究会の雰囲気

アンケート集計結果とコメント（まとめ）

- 若手および中堅の研究者を繋ぐ大切な研究会
- 手作り感のある、リラックスした雰囲気がよい
- 「食欲、食嗜好」というキーワードで、
医学・農学・栄養学などの異分野が集まれる会はとても重要
- 学術領域の派閥を感じない、自由で、若い研究者が生き生きと発表できる環境はとても良い
- 産学の壁を越え、フラットに最先端の研究者と気軽に直接対話ができる会は他にはなく貴重



参加者プロフィールに関するコメント（まとめ）

参加者全員のプロフィールの作成と事前配布は大変好評でしたが、よりよくできる提案がありました。

- 事前に参加者プロフィールを確認できて参考になった。
- 各自の専門やニーズが事前にわかり、発表者以外との情報交換がしやすかった。
- 連絡先が書いてあり、今後の連携・ネットワーク形成につなげやすい。
- 抄録や発表・ポスターのどこかに、プロフィールを示すと、両者をリンクしやすい
- もう少し大きくして見やすくしてほしい

お土産の持ち寄りに関するコメント（まとめ）

任意でのおみやげ持参ですが、引き続き好評でした。

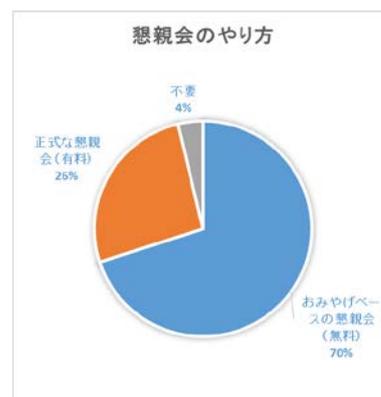
- 全国の特産品が集まり、おいしいお菓子を堪能できた。
- 会費を徴収する懇親会よりもお金がかからず、若い人が参加・交流しやすい良いフォーマットだ。
- お土産コンペなどのプチイベントがあったら、さらに面白いかも。

他方、任意の持ち寄りに依存するため、おみやげが「お菓子」に偏り、「軽食が欲しかった」という要望もありました。

懇親会に関するアンケートとコメント（まとめ）

今後の方針に関するアンケートでは、現行方式（正式な懇親会なし）でOKが多数派でしたが、参加者の交流促進のために、懇親会・二次会のやり方には工夫が必要という意見がありました。

- おみやげベースの懇親会は面白い。
- ポスター懇親会は休憩時間の延長という感じだったので、懇親会が別途あった方が多くの人とコミュニケーションがとりやすい
- 事前調査をした方が、自発的な二次会でも当日準備がしやすい
- お店での自発的な二次会だとたまたま座った席に依存するので、懇親会形式のほうがより多くの人と話せる



その他、運営面で改善できるポイント

会場周辺情報について

会場周辺のホテル情報はウェブサイトに掲載しましたが、会場となった岡崎カンファレンスセンター周辺にはコンビニ等何もないため、事前に教えてほしかったという要望がありました。こういった問題が起きないように、今後は善処したいと思います。

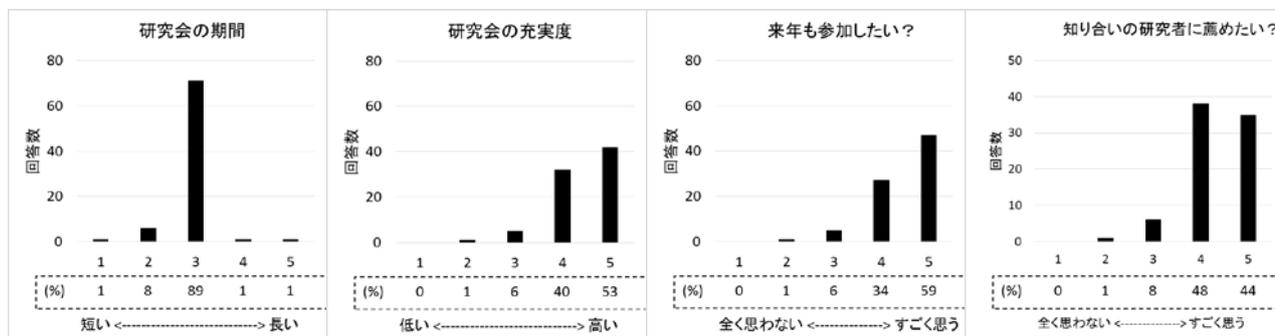
開催時期のアナウンスについて

研究会開催日程をもっと早く（具体的には4ヶ月以上前）公表してほしいという要望がありました。

生理研研究会として開催する場合、3月上旬にしか開催が確定せず、確定前にアナウンスできないという問題があります。研究会の今後の運営方法に依存する問題でもあり、継続審議課題と感じています。

総合的な印象

アンケート集計結果



研究会の期間や、参加された方の満足度や、他人に薦めたいと思うかなど、昨年と比べても数値の改善が認められました。昨年よりも充実度が高められたのではないかと思います。

今後の運営方針について

今回の研究会の運営方法は大きな方向性としては正しく、毎年開催の要望は非常に高いと感じました。また、学会化を旨とした単純拡大路線ではなく、研究会のよさ（リラックスして、自由な意見交換を、フラットな関係でできる）を生かせる範囲で質を高め、その結果としてインセンティブがついてくるのが理想と思われまます。

- 派手で無く、勉強会開催を第一目標としたスマートな運営が良い
- 少人数でも、この分野の研究に熱意を持った研究者が集まることが大事
- 新学術領域や挑戦的研究（開拓）のような研究費のインセンティブのある会へと発展・脱皮できればよい

他方、毎年担当者が同じでは負担が大きく、研究会の継続的な開催には主催・運営負担の軽減・分散化が必要だということは、コンセンサスが得られているようです。

対策として以下のような提言がありました。

- 世話人会を作り、役割分担する
- 開催・運営の持ち回り
- 参加費を取り、業務の一部を外部委託できればよい
- 現状の規模を維持するなら、若干の会費を取れば持ち回り開催が可能ではないか

今後の方針に関するアンケートの集計結果

今後の方針	数		%		運営の方法	数		%		会費	数		%		場所	数		%	
会費あり、生理研、手弁当	19	24			手弁当	75	94			あり	40	50			生理研	45	56		
会費なし、生理研、手弁当	26	33			プロ化	5	6			なし	40	50			それ以外	35	44		
会費あり、持ち回り、手弁当	19	24																	
会費なし、持ち回り、手弁当	11	14																	
会費あり、持ち回り、プロ化	2	3																	
スポンサー獲得、持ち回り、プロ化	3	4																	

運営方法に関して

手作り感のあるやり方が大多数から支持されました。プロ化すると堅苦しくなり、本研究会の良さの一つであるリラックスした雰囲気が増えたと感じられているようです。

参加費の徴収に関して

意見が完全に半々(50%)に割れました。以下のような意見がありました。

- 参加費がないからこそ、気軽に参加し、自分の専門領域外の話聞く機会にしている
- 参加費を徴収は、紳士協定で **unpublished data** を発表しあう会の趣旨にそぐわない
- 会費で研究会を運営するためには、最低限の参加者数が予想できる必要があり、現行方式で数回運営してからでもよいのではないかと

他方、半分の人が「研究会の運営を安定化に必要ななら、参加費を支払ってもよい」と感じるだけの価値を、研究会が提供できているという解釈もできます。

現状の内容では一般の参加費は 3000 円程度が妥当と考えている方が多いようでした。

(平均±標準誤差=3288±167 円、中間値=3000 円)

開催場所について

意見がほぼ半分に割れました。それぞれ一長一短があるからだと思います。

- 生理研の会場は立派で、宿泊費が安いロッジがあり、若手が参加しやすい
- 全国各地で開催すれば活気づく
- 運営の負担を分散するために、各地で持ち回り開催をするとよい

中堅・若手が主体となっている会で、主催する能力がある人を毎年確保するのも難しい課題です。

開催場所に関するアンケート結果は、「生理研の予算を獲得し、「生理研研究会」として別会場で開催」が可能かにも依存すると思います。

ただし、アクセスのよい場所（東京、大阪、京都、名古屋などの大都市圏）にあるアカデミアで開催すれば、会場費は抑制できますが、生理学研究所と同じ規模で宿泊施設を提供できる施設は恐らくなく、宿泊費を抑えることは難しいと思います。

対策としては、以下の順序で考えるのが妥当ではないかと思いました。

- (1) 生理学研究所研究会の予算枠の獲得を模索しながら、研究会としての実績を積み重ねる
- (2) 将来的には参加費での運営も考慮し、開始場所を分散化する